

基本情報

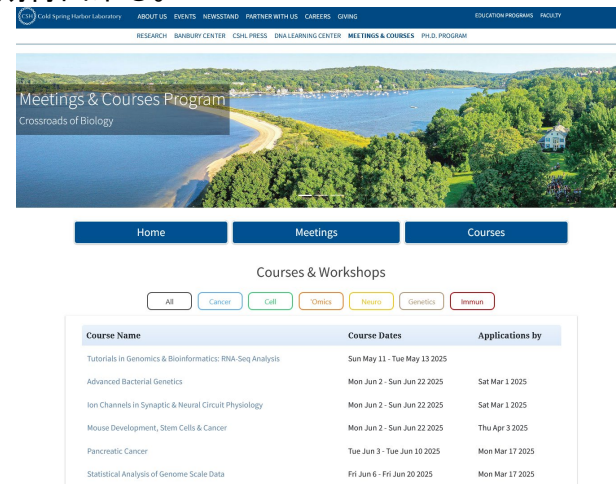
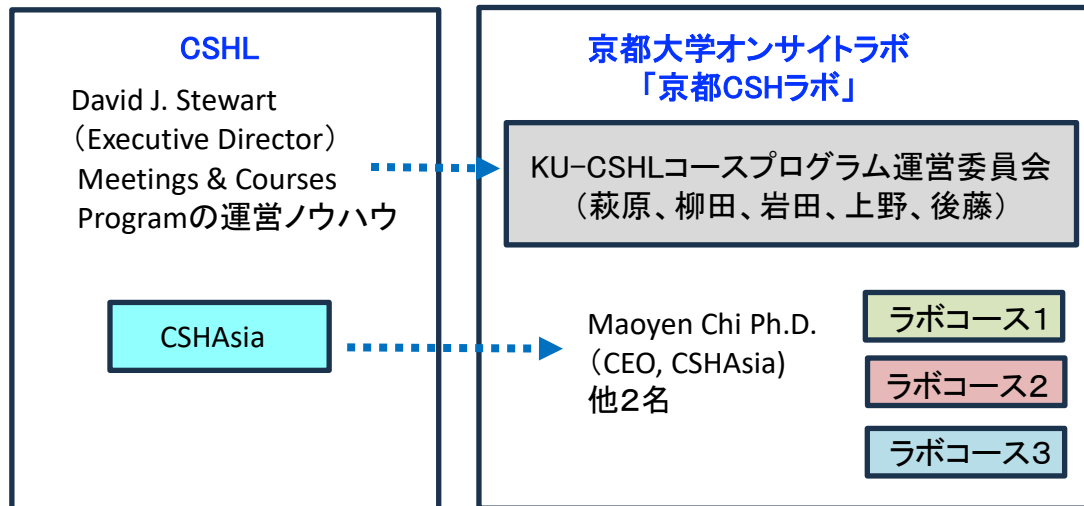
- ◆ 認定年度: 2025(令和7)年
- ◆ 設置時期: 2025(令和7)年10月
- ◆ 実施部局: 医学部・医学研究科、iPS細胞研究所
- ◆ 相手方機関: COLD SPRING HARBOR LABORATORY (CSHL) (米国)
- ◆ 設置タイプ: インバウンド型
- ◆ 設置目的: KU-CSHラボコースを開設して人材育成、国際交流、国際共同研究等を促進する。
- ◆ 設置場所: 京都大学大学院医学研究科(日本・京都)
- ◆ 活動内容: CSHLは本医学研究科内に、研究交流や人材育成のためのオフィスを設置してスタッフを常駐させ、最先端の生命科学分野の国際的技術研修コースを開設する。これにより、先端技術情報の国際的発信や、国際共同研究の促進効果も期待出来る。

活動による大学全体への波及効果

- 本学の院生や若手研究者が生命科学分野の最先端技術を京都に居ながらにして習得する機会の提供。
- ノーベル賞受賞者など国際的研究者のセミナーを聴講できる機会の増大。
- ラボコースには海外からも多くの院生・若手研究者が参加するため、国際交流が飛躍的に促進。
- CSHLの最先端研究者と本学研究者の交流も進み、国際共同研究が増進。

活動概要

CSHLは分子生物学の発展を牽引してきた世界最高峰の研究所で、世界中の優れたサイエンティストを集めるミーティングやラボコースも主催するなど、生命科学分野の世界的な中心地としての地位を維持発展させている。そうしたラボコースを本医学研究科内で開催することによって、本学の院生や若手研究者が生命科学分野の最先端技術を京都に居ながらにして習得する機会を提供できる。またノーベル賞受賞者など国際的研究者が本ラボコースで講演を行うため、本学の研究者がそうしたセミナーを聴講できる機会が増大する。またこのラボコースには海外からも多くの院生・若手研究者が参加するため、国際交流が飛躍的に促進されると予想される。また、この共同事業を通して、CSHLの最先端研究者と本学研究者の交流も進み、国際共同研究の増大効果が期待出来る。



URL: <https://meetings.cshl.edu/courses>

2025年度の主な活動実績

① 京都CSHラボの設立

- Cold Spring Harbor Laboratory (CSHL) は分子生物学を牽引する世界最高峰の研究機関であり、James Watson元所長をはじめ多くのノーベル賞受賞者を輩出してきた。CSHLは世界中の優れたサイエンティストを集めるミーティングやラボコースも主催するなど、生命科学分野の世界的な中心地としての地位を維持発展させてきた。このたび、本学と共同で新しい拠点の立ち上げに着手し、オンサイトラボ「京都CSHラボ」を設立した。
- 本プログラムの推進のため、社団法人CSHA-Japanを2025年12月に設立した。

② 最先端の生命科学分野の国際的技術研修コースの立ち上げ

- 2026年8月から、CSHLと本学医学研究科が合同で最先端の生命科学分野の国際的技術研修コースをスタートさせる予定で、KU-CSHLコースプログラム検討委員会の設置準備を進めた。
- 京都に居ながらにして、生命科学分野の最先端技術を習得する機会を提供できる仕組みを構築した。これにより、ノーベル賞受賞者などがKU-CSHLラボコースで講演を行い、本学の研究者がそうしたトップレベルのセミナーを聴講できる機会の増大を目指す。